

日本味と匂学会誌論文集原稿執筆要領 (2006年2月10日改訂)

大会論文集は、日本味と匂学会誌第3号として出版されます。提出された論文の掲載可否は、査読を行った上で、日本味と匂学会誌編集委員会が決定します。論文集号の印刷方法を電算写植に変更して以来、マイクロソフトワード (Microsoft Word) で原稿を用意していただいております。以下の項目を良くお読みの上、論文原稿を作成して下さい。

(1) 使用可能なマイクロソフトワード (Microsoft Word) のバージョン

- a) Windows 系 MS-Word95-98, MS-Word 2000-2003
- b) Macintosh 系 MS-Word 6.0J, MS-Word 95-98, 2001-2004

(2) 提出方法

次の2つの方法のいずれかで提出して下さい。

- a) 写真や図表を原稿に入れたファイルの打ち出しを用意する。
- b) 写真や図表のための空白を入れた原稿本文を打ち出し、その空白に写真や図表をのりで貼り付けたものを用意する。

(a) か (b) のいずれの場合でも、打ち出しに用いたファイルを保存した 1.44 MB フロッピーディスク (1.2 MB は受け付けません) もしくは CD-R を用意して下さい。フロッピーディスクのラベルには、Windows あるいは Mac か、Word のバージョン、演題番号、連絡著者名および所属略称を記入して下さい。

(3) 原稿の長さ

図、表、写真を含めて2頁か4頁のいずれかを選択できます。1頁もしくは3頁の場合は、空白頁が生じるために、受理しておりません。

(4) フォント

題名	14 ポイントの MS-ゴシック 14 ポイントの中ゴシックでも可 (Macintosh 系)
著者名 (氏名)	12 ポイントの MS-明朝体と Times New Roman 12 ポイントの細明朝体と Times New Roman でも可 (Macintosh 系)
所属	10 ポイントの MS-明朝体と Times New Roman 10 ポイントの細明朝体と Times New Roman でも可 (Macintosh 系)
見出し	12 ポイントの MS-ゴシック 12 ポイントの中ゴシックでも可 (Macintosh 系)
本文および文献	12 ポイントの MS-明朝体と Times New Roman 12 ポイントの細明朝体と Times New Roman でも可 (Macintosh 系)
図および表の説明	10 ポイントの MS-明朝体と Times New Roman 10 ポイントの細明朝体と Times New Roman でも可 (Macintosh 系)
脚注	11 ポイントの Times New Roman

(5) ページ設定

A4 用紙、上・下余白 2.0 cm、左・右余白 2.0 cm、和文フォント 12 ポイント 1 行 40 字、1 頁 40 行に設定します。余白に図、表、写真および文字がはみでないように注意します。

(6) 文体など

文字は、常用漢字と新仮名づかいでお書き下さい。

術語や物質名などは、日本語で書き、必要に応じてその言語を()で示して下さい。

生物名は、カタカナ書きの和名で著し、初出時にイタリックで学名を()で示して下さい。

数字は、原則として半角アラビア数字を用いて下さい(例：1 つ、2~3 時間、30 個)。ただし、“一例”や“数十個”などの場合は、その限りではありません。

(7) 記述の順序

題名、著者名、所属、目的、方法、結果、考察、謝辞、文献の順に記述して下さい。

ただし、1 頁目にのみ、題名、著者名、所属、所在地、連絡先メールアドレス、Fax 番号などを英文で記述した脚注を入れて下さい。

(8) 図および表の挿入(レイアウト見本参照)

図および表は、横一段に一頁幅もしくは横一段に 2 つの図および表を挿入して下さい。図の番号および説明文は、図の下になるように本文に書いてください(テキストボックス中には図の番号および説明文は書かないでください)。表の番号および説明文は、表の上になるように本文に書いてください(テキストボックス中には表の番号および説明文は書かないでください)。

なお、図および表の挿入場所を空白行として空けて、図および表をのりで貼り付けても結構です。

図および表中のフォントに関する注意：

図および表は、86%の大きさに縮小されます。このため、フォントは十分に大きなものを用いて下さい。また、縮小の際につぶれることが多いので、“太字”“Bold”は用いないようにして下さい。

印刷は白黒で行います。カラー写真はコントラストが低下することがありますので、ご心配の方は、コントラストを補正した白黒写真をお使い下さい。

◆図および表を挿入する。

方法：「挿入」「テキストボックス」「横書き」をクリックする。

(9) 文献の書き方

1. 本文中の引用箇所、引用順に 1) 2) 3, 4) 5-7) の通し番号を右肩につけて示して下さい。文献は、文末にまとめて記述して下さい。
2. 文献が雑誌の場合、著者名(著者全員、氏名の姓と名)、論文タイトル名、雑誌名(イタリック)、巻数(イタリック)、はじめのページ、おわりのページ、出版年の順に以下の例に従って記述して下さい。

- 1) 神崎亮平, 池田 哲, 渋谷達明: 昆虫の嗅覚本能行動制御するフリップ・フロップ下行性介在ニューロンについて. 日本味と匂のシンポジウム論文集 26, 249-252 (1992)
 - 2) 吉田正昭: 化粧品の香の「情感」. 心理学評論 25, 145-162 (1982)
 - 3) Yamamoto T, Yuyama N and Kawamura Y: Cortical neurons responding to tactile , thermal and taste stimulations of the rat's tongue. *Brain Res.* 221, 202-206 (1981)
 - 4) Nakamura T and Gold GH: A cyclic nucleotide-gated conductance in olfactory receptor cilia. *Nature* 325, 442-444 (1987)
 - 5) Sato K and Suzuki N: Whole-cell response characteristics of ciliated and microvillous olfactory receptor neurons to amino acids, pheromone candidates and urine in rainbow trout. *Chem. Senses* 26, 1145-1156 (2001)
3. 文献が図書の場合、著者名(著者全員、氏名の姓と名)、論文タイトル名(章の見出し)、書名、編集者名、出版社、出版地、はじめのページ-おわりのページ(ppで始める)、出版年の順に以下の例に従って記述して下さい。
- 6) 柏柳 誠, 栗原堅三: 嗅受容膜の性質とその分子生理. 匂いの科学 (高木貞敬, 渋谷達明編), 朝倉書店, 東京, pp. 82-90 (1989)
 - 7) Lancet D: Molecular components of olfactory reception and transduction. *In* Molecular Neurobiology of the Olfactory System (Margolis FL and Getchell TV eds), Plenum Press, New York and London, pp. 25-50 (1988)

(10) 脚注の注意点

◆行間を 13 ポイントに指定する。

方法: Microsoft Word では、「書式(O)」「段落(P)」をクリックして現れる「インデントと行間隔」のタブの中の「行間」を「最小値」か「固定値」に指定すると、間隔を「13 ポイント」に指定できます。この際、「1 ページの行数を指定時に文字を行グリッド線に合わせる」のチェックをはずすことを忘れないで下さい。

◆メールアドレスに「下線」を付けない。

Microsoft Word では、自動的にメールアドレスに「下線」を付ける場合があります。

方法1: 「書式(O)」「フォント(F)」をクリックして現れる「フォント」のタグの中で、「全ての文字列」「下線」を「下線なし」に指定する。同じ画面の「フォントの色」も「黒」に指定して下さい。

方法2: メールアドレスにカーソルを移動し、マウスを右クリック。「ハイパーリンクの解除」をクリック。または、メールアドレスにカーソルを移動し、マウスを右クリック。「ハイパーリンク」「ハイパーリンクの編集」を指定。「リンクの解除」をクリック。

◆脚注区切り線は、underbar “_”で中央まで。

(11) 「レイアウト見本」を参考にして下さい。